

令和5年度 自己評価

保育を行う上で重要な「子どもを尊重する」ことや「子どもの人権擁護」についてあらためて意識を高め、自らの保育を振り返ることを目的に、今年度の自己評価には全国保育士会が作成した、人権擁護のためのセルフチェックリスト～子どもを尊重する保育のために～を用いました。

自らが意識をせずに「子どもを置き去りにした保育」や「保育者の都合ですすめる保育」を行っていないかの自己点検の機会としました。チェックリストには項目ごとにより良い関わりへのポイントが掲載されており、より良い保育の質の向上に努めます。

否定的な言葉を使わず、子どもの自主性を重んじ、1人の人として大切にされることが子どもの人権を尊重する基本だと思います。子どもの人権を尊重していくためには、常に子どもの立場になって考え、保育者も一緒に悩むことがとても大切だと思います。そして、子どもの人権に配慮した丁寧な保育を心がけていきます。

今回1月にアンケートを行い、保育士6名、その他職員9名、合計15名が回答し、集計しましたので、結果を公表いたします

人権擁護のためのセルフチェックリスト集計

	子ども一人ひとりの人格を尊重しない関わり	物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉かけ	罰を与える暴力的なかかわり	一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり	差別的なかかわり	平均
	「してない」割合	「してない」割合	「してない」割合	「してない」割合	「してない」割合	88.2%
平均	80.6%	82.6%	98.6%	96.6%	92%	

「している（したことがある）」が3人以上いた項目（全15名）

(1) 子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり		しているの数 (したことがある)
5	子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。	8
7	食事の際、こぼす等の理由で、テーブルに給食のメニューをすべて配膳せず、食べたらずのおかずをあげる。またはこぼすたびに叱りながら食べさせる。	7
10	自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこでない」と訴えていても、トイレに行くように促す。	5
(2) 物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉かけ		
1	集団行動をするための言葉かけをした際、言葉かけを聞かない子どもに「○○しないなら○○できないからね」と言葉をかける。	6
4	寝ずに話をしている子どもに対して、外で寝るように言ったり、布団を友だちの布団と離して敷いたりする。	7

(5) 差別的なかかわり		
3	少食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。	5

○チェックリストを実施・レーダーチャートを作成して気づいたことや感じたこと

- ・今後も意識しながら過ごしていけるようにしたいと思った。
- ・食事の配膳の時は、苦手なものがある子は少し量を減らして対応していたので考えさせられた。
- ・トイレに行きたがらない子に対して、少し無理にトイレに誘っていたので関わり方を見つめ直したいと思う。
- ・自分なりに良かれと思って関わっていたことが実際には人権、人格を尊重していない関わりであったことに気づいた。自分の主観で行っており、子ども達に申し訳なかったと思う。良い関わり方をヒントにして、今後はその事を意識して保育を行っていききたい。
- ・一日の流れの中でチェックリストの内容で問われている場面は少なくないと思う。無意識の中で行っている部分が自分自身も多いので、子ども達との関わり、声かけ、対応など十分考えながら保育を行っていききたいと思う。
- ・心と心のかかわりを今後もしていきたい。自分が絶対とは思わない。
- ・自分が保育にあたる時、関わり方を振り返ることができた。現在ではなく以前にそのような関わり方をしたことがあることも含めて考えてみることができた。
- ・「したことがある」という視点でチェックすると、毎回そのような関わりでなくても改善するべき点がたくさんあることに驚き、ショックを受けた。
- ・子ども一人ひとりに丁寧に関わるには、保育士の人数も必要だと思う。
- ・何かの作業をしている時に、子どもが何かをしてほしくて頼みに来た時に、「これが終わったら聞かからね」と声を掛けていきたいと思った。
- ・私自身は保育に殆ど入らないが、チャートのより良いかかわりへのポイントを見て、自分がもし保育に入らなければいけない時は参考にしようと思った。

○良い点

- ・登園時に抱っこされて離れられない子はしばらく保護者に抱っこしてもらい、落ち着いた頃に声をかけたり、保護者が行った後も落ち着くまで抱っこしている。次々に登園児がくる時にはクラスの先生の所まで一緒に行き安心できるように心がけている。
- ・子ども一人ひとりの特徴を理解することに努め、保育を行っているが、集団生活になるとその子にしっかり向き合えきれていない事もあったと思う。その事を常に頭にいて、より良い保育を行っていききたい。
- ・子ども達には優しい言葉かけやスキンシップを大事にして関わるようにしている。
- ・子育ての経験から保護者の家庭での大変さもある程度想像できるので保護者の気持ちに共感したり提案できることがあること。
- ・子ども同士のトラブルの時には両方の言い分をしっかりと聞くように心掛けている。
- ・送迎時など保護者への対応は不安や不快な気持ちにならない様にと思いながら常に対応を心掛けている。

- ・子どもの作品はその子の感性なので、そのまま受け止め、どのような気持ちで書いているのかを聞き、一緒に楽しむようにしている。
- ・怒鳴ったりすることはないので今後も落ち着いて関わっていきたい。
- ・子ども達の日々の保育が楽しいもの、のびのび生活できるものであって欲しいと思いながら常に関わる様に心掛けている。
- ・声を荒げたり、必要以上に怒ることをしないように気を付けている。
- ・罰を与えたり、乱暴に関わることはしていないと思うので今後も子どもの心や身体に苦痛を与えることの無いようにしていきたい。
- ・寝かしつける時はトントンと叩くのではなく、優しく撫でるなど、気持ちよく眠りにつけるような関わりを心掛けている。
- ・それぞれ家庭環境も違うので、偏った考え方はしない様に心掛けている。
- ・給食おやつのおかわりは一人ひとり平等に配るように気を付けている。
- ・朝や帰りの挨拶は「おはよう」や「さようなら」だけでなく「〇〇ちゃんおはよう」等、その子の名前を呼んで挨拶するように心がけている。
- ・みんな平等だと思って、常日頃から子ども達には関わっている。

○改善すべき点

- ・午睡後の時間やバタバタしている時に子どもの話に耳を傾けられない時があるので時間にゆとりを持てるようにしていきたいと思う。
- ・子ども一人ひとりの特徴を理解することに努め、保育を行っているが、集団生活になるとその子にしっかり向き合えきれていない事もあったと思う。その事を常に頭に、より良い保育を行っていききたい。
- ・子どもに「ちょっと待ってね」と言ってしまう。(今〇〇だから〇〇の後に…と丁寧に説明しないことがある。) その後のフォローをしっかりしていきたいと思う。
- ・給食前など途中排泄失敗があると困るなあという思いで(大人の都合で)トイレに誘ってしまうことがあった。
- ・自分自身の気持ちや心の余裕がない時に『よくない』と考えられる関わりになってしまうことがあるので気を付けて保育をしていきたいと思った。
- ・食事等はバランスよく食べさせ、嫌いなものや苦手なものも少しでも食べられるように一口食べてと言ったり、体の成長には食事・栄養も重要と考えて、まず副食から食べるよう促したりしたことがある。
- ・何かをしながら子ども達の話聞くことが多いのできちんと立ち止まって、目線を合わせて聞く。
- ・寝ようとしている子に話しかける子がいて、何度声をかけても同じことをする時に布団のスペースを空けたりすることがあったので気を付けたい。しかし、そういう時の対応は難しいと感じることがある。
- ・子ども達が意欲的に取り組める様に楽しい声かけや環境作りを心がけているが、なかなか気分がのらなかったり、嫌がる子もいる。今までは少し無理に誘っていたので、子ども一人ひとりの気持ちを尊重した保育や関わり方をしていきたい。
- ・午睡時に話をする子に、「静かにしてください」という言葉のかけ方をしていた。良い関わりのポイント

トを読んで、その事を子どもが納得して行うことができるような言葉かけが必要なのだと思います。

- ・他の職員よりも声が大きいので、声のトーンに気を付けながら過ごしていければと思う。
- ・並ぶ時に後から来た子が間に入ってケンカになることもあり、その時に話をしてもそのまま無理やり入る子もいる。その時も落ち着いて対応できるようにしたい。
- ・子どもが納得して自ら動けるような言葉かけをする。「何で嫌なのかな？」ということを考えて関わるようにする。
- ・急に走り出す子どもをとっさに腕をつかんでしまう時があったので、事前に話をよくして、子どもが先の見通しをたて安心できるような関わりを持つ。
- ・職員同士で子どもと保護者の関わりや家庭環境について話すことがよくあるが、特にマイナス面においては愚痴にならない様どうすれば良い状況に向かうのかというところを大事にしていきたい。
- ・「お迎え遅いね」と言ってしまうことがあるのでお迎えを待っている子どもの気持ちに寄り添えるような言葉かけをするよう気を付けたい。
- ・子どもの置かれている環境を今よりも良くするために保護者にも、もう少しいろんな面で伝えていける様にしていきたい。
- ・差別の意識はなかったが、少食（いつも残す）子の場合残率が多いと勿体ないという気持ちから、子どもに尋ねず職員同士で「半分くらいにしてみようか」などと話して最初から少なく配膳することがあった。今後は子どもの意思を確認して行うようにしたい。
- ・準備や片づけ等、時間がかかる子にはみんなの前でなく、その子の側に行って声をかけるようにする等、子どもが傷つかないような関わりをする。
 - ・男の子だから、女の子だからというのは、自分自身の育ちもあるので、気を付けて声かけする様にしていきたいと思う。
 - ・差別的な考えはせず、その人を知ることから行っていきたい。